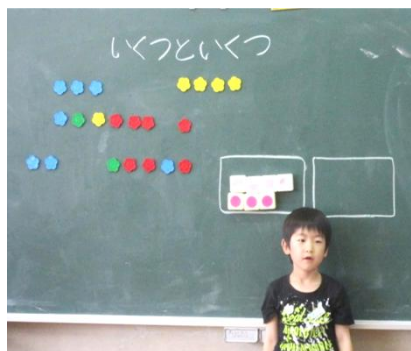


第一番 左沢学校

共生 One for all, All for one

問題・課題提示のいろは



私ごとで恐縮である。

スキー教室のことである。場所は朝日自然観スキー場の「大空」。レジの若い女の子が、ちらちらと私を見る。眼と眼があった。その子は私の所にやってきた。「先生、私のこと覚えていませんか。」情けないことに名前が出てこない。「チョッピーの○○です。」10年前のことが鮮やかによみがえった。

5年理科。種子の内部を観察する授業。教科書教材はインゲン豆。課題は、【種子の中に、はじめから根やくき、葉があるか】子ども達は、「ない」と予想した。「見たことがない」「土の中で成長してから形になる」「人間もはじめは卵」を根拠にあげた。ここで、ピーナッツの登場。「なんでピーナッツ？」の声。私は「後で食べられるから。」と、答えた。

盛り上がったところで、ピーナッツを二つに割った。子ども達は最上部の「でっぱり」に目を付けた。「何か模様がある。」「虫めがねが欲しい。」虫めがねを使った子が、大きな声で言った。「葉っぱだ。葉っぱのすじ模様だ。」後は、驚きの時間となった。「でっぱり」は食感もちがう。乾いた米粒のようだった。

「でっぱり」に名前をつけた。「ちょこっとしているから、チョッピーがいい。」そのチョッピーの名づけ親が彼女だった。彼女は今、置賜の小学校で新採2年目の主事としてがんばっている。

6年理科。教科書通りに課題は【新しい子いもに養分はあるか】とした。板書直後、ある男子が言った。「先生、こだな、あるって決まてっぺず。」「課題になっていないべ。」おっしやるとおり。私はすぐ白旗あげた。その男子は、今、西村山の中学校で中堅教員として活躍している。

どんな問題（課題）がよいか。H29研究紀要を読む。「やってみたい」「考えたい」を引き出す価値ある問題がよいと明記してある。行間から確信と自信が伝わる。

次は

『かかわり合い』はどうか。●がいくつもある。どの学校も同じだ。「学び合い」の難しさを感じる。研究紀要P30に、「仲間と深くつながるために（中略）必要な力を積み上げる」と記されている。必要な力とは、どのような力なのか。私達は日常の授業で、どう指導すればよいのか。

川崎市立川崎小学校では、「教師の秘伝」と称して、次のように述べている。

秘伝の鍵（抜粋）

その3 教師は個別指導を優先させるのではなく、「教えに行くこと」「教わりに行くこと」「教え方」を教えることが大切です。

